

# 郷土文化財紹介

## 埋蔵文化財シリーズ ＜古墳と出土物＞

中津川市内木曾川東側には多くの古墳がありました。開発により姿を消してしまいました。木曾川西側では坂下以外古墳は確認されていません。そんな中、古墳が形をとどめ現存するのは坂下地区のみとなりました。直径十数メートルの小形な円墳ですが大変貴重な文化財と言えますが、野ざらしなので少しずつ壊れており保存には頭を痛めます。

坂下地区の古墳は、高部地区の東端に万治屋塚古墳群、下原南端にホヤノ木古墳群、井上神明神社周辺に氷坂古墳群、椈の湖湖底部で椈の湖古墳群が確認されています。形をとどめる古墳は椈の湖2号古墳と氷坂3号古墳の2基であり、他はやはり開発でなくなってしまいました。

6世紀から7世紀頃小規模ではあるが稲作文化が坂下の地にも広がり、人口が増えて集落ができたと考えられます。その集団を率いる長(おさ)は、それなりの財と権力を得て、古墳を造らせたのでしょう。古墳の主は、大和王朝時代から加茂地域の役人であった鴨縣主に繋がる人達ではないかと推測されています(中津川市史)。

### ＜古代のロマン、坂下の卑弥呼の墓＞

椈の湖に浮かぶ中の島が椈の湖2号古墳です。地元の話では椈の湖築造工事前には4基ほどの古墳がありましたが、築堤工事のために1、3、4号古墳が破壊されてしまいました。2号古墳以外は詳しい資



←椈の湖2号古墳  
湖中に円墳の頭を見せる

料が残っていないためはっきりしません。

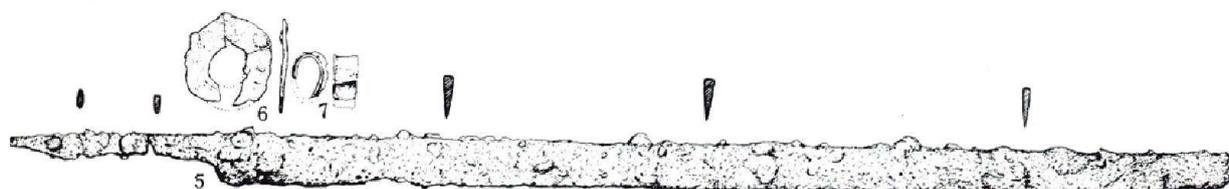
2号墳は封土直径が15mで坂下の古墳では一番規模が大きく、西に開口する長さ4m、巾1.5m、高さも1.5mの石室を持ち周囲に幅40cm程の堀があったと記録に残っています。

副葬品としては大小直刀、刀子(ナイフ)数点、鉄鏃、須恵器長頸瓶、高坏、

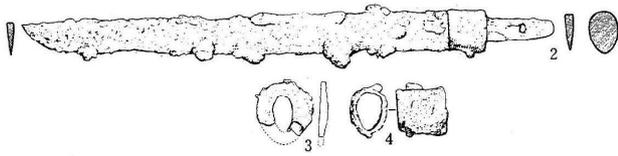
壺と共に人骨、歯が数点発掘された。のちに人骨の鑑定を行ったところ、16～22歳くらいの女性のもので鑑定されました。度重なる盗掘にあっているためはっきりしませんが、副葬品に装飾品が全くなく武具が多いことからこの地方を治めた豪族の一族だと思われます。また、発掘当時女性を埋葬した古墳は全国でも珍しいことから、『坂下の卑弥呼』ともいえる特別な地位の女性ではないかといわれました。



↑椈の湖2号古墳  
湖水面が下がると西側堤防から横穴式の入口が見られる。

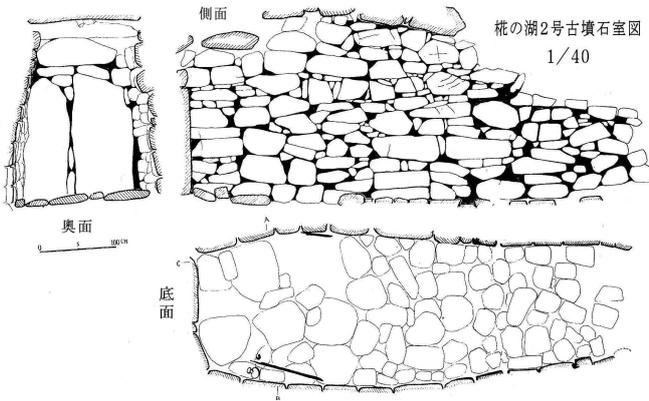


5 椈の湖2号古墳直刀(発掘調査報告書より) 6 直刀の鐔(つば) 1/6



← 柵の湖2号古墳  
長頸瓶 7世紀

↑ 柵の湖2号古墳  
直刀その2



← 氷坂3号古墳  
横穴式の古墳である  
部蓋は無くなっている  
天井

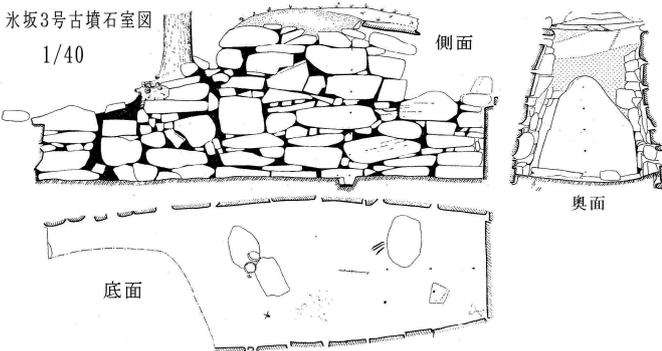


↑ 氷坂3号古墳鉄鏝  
高杯(たかつき)→

## ＜坂下町平の支配者の墓＞

坂下地区で最も規模の大きい古墳群で、約10基の古墳があったと伝えられています。現存するものは乙姫農道脇神明神社入り口に盛土直径8m、3m程の石室を持った3号古墳があり、1958年発掘が行われ、刀子1点、メノウ製の勾玉1点、金環(耳飾り)1対、鉄鏝数点、須恵器高杯1杯と杯二杯が発見されました。また、神明神社社殿盛土が2号墳ですが未調査のため詳細は分かっていません。

これらの古墳は、現在の坂下地区に点在する集落を束ねる首長の墓と考えられます



↑ 氷坂3号古墳 勾玉(まがたま)と金環(金メッキ)

## ＜坂下で最も古い古墳＞

JR坂下駅を名古屋方面に向かうと、川上川の鉄橋を渡ってすぐ左に栗林が現れます。その一面に万治屋古墳群がありました。JR中央線の複線化工事で現在では1号墳を残して消滅してしまいましたが、古墳の形状や直刀、鉄鏝、土師器などから坂下地域では最も古い古墳と考えられています。

→ 万治屋塚古墳  
縦穴式古墳 中央線  
施設工事で円墳中央部  
は掻き取られてしまっ  
ている

